

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2014年6月)

発表日2014年8月8日(金)

～経常収支(季調値)は小幅黒字に留まる～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
TEL : 03-5221-4524

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2014	7月	6,004	3,563	▲ 9,793	▲ 7,145	▲ 2,648	14,208
	8月	1,571	1,643	▲ 9,601	▲ 6,408	▲ 3,193	12,134
	9月	5,948	447	▲ 12,517	▲ 9,582	▲ 2,935	13,816
	10月	▲ 1,543	780	▲ 12,070	▲ 8,636	▲ 3,434	13,874
	11月	▲ 5,969	▲ 1,078	▲ 13,193	▲ 10,119	▲ 3,074	13,506
	12月	▲ 6,799	305	▲ 12,815	▲ 9,293	▲ 3,522	13,960
2014	1月	▲ 15,861	▲ 5,830	▲ 18,085	▲ 14,384	▲ 3,701	13,773
	2月	6,077	▲ 515	▲ 11,986	▲ 8,809	▲ 3,177	13,460
	3月	1,597	▲ 7,434	▲ 18,828	▲ 15,882	▲ 2,947	12,890
	4月	1,874	1,305	▲ 11,067	▲ 8,314	▲ 2,753	14,176
	5月	5,228	3,846	▲ 7,673	▲ 5,545	▲ 2,128	13,593
	6月	▲ 3,991	1,256	▲ 10,766	▲ 7,960	▲ 2,806	12,785

(出所)財務省「国際収支統計」

○経常収支(季調値)は小幅黒字に留まる

6月の経常収支(原数値)は3,991億円の赤字(コンセンサス:3,231億円の赤字、レンジ:▲5,400~1,020億円)と5ヶ月ぶりに赤字となった。季節調整値でみると、1,256億円の黒字と3ヶ月連続の黒字だが、黒字幅は小幅なものに留まっている。

経常収支(季節調整値)の黒字幅縮小の主因は、貿易赤字の拡大(5月:▲5,545億円→6月:▲7,960億円)である。輸出が前月比+3.2%、輸入が同+6.7%とともに増加したが、輸入の伸びが輸出の伸びを上回ったことで貿易赤字額は増加した。輸出は2ヶ月連続の増加であるが、輸入の伸びを明確に上回るほどの力強さはみられない。経常収支(季節調整値)は消費税率引き上げ後、輸入が大きく水準を切り下げたことを背景に黒字基調で推移しているが、輸出の増加ペースは緩やかなものに留まっており、黒字幅は低水準なものになっている。

○第一次所得収支は横ばい圏の推移が続く

6月の貿易外収支(季節調整値)をみると、第一次所得収支は12,785億円の黒字(5月:13,593億円の黒字)と2ヶ月連続で黒字幅が縮小したが、均してみれば横ばい圏に留まっている。直接投資収益(5月:3,418億円黒字→6月:3,716億円黒字)は黒字幅が小幅拡大、証券投資収益(5月:9,724億円→6月:8,546億円)は黒字幅が縮小した。均してみると、直接投資収益は増加傾向、証券投資収益は減少傾向、第一次所得収支は横ばいでの推移となっている。対外資産負債残高は直接投資残高、証券投資残高ともに高水準を維持しており、対外直接投資、対外証券投資ともに取得超傾向での推移が続いていることなどから今後も第一次所得収支が大幅な黒字を計上する構図に変化はなさそうだ。

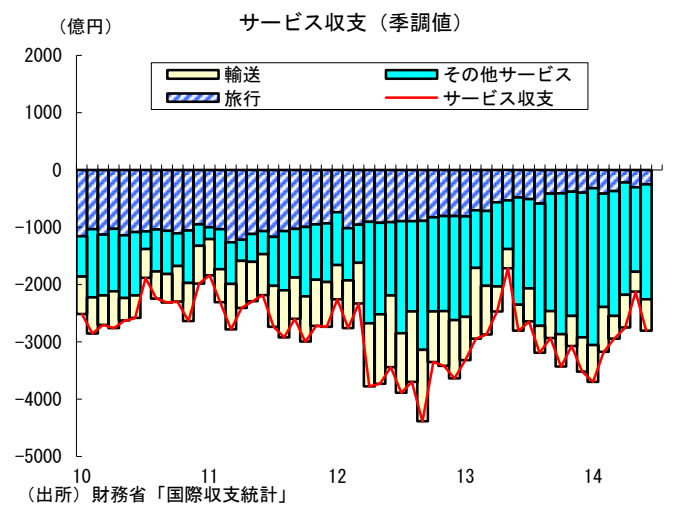
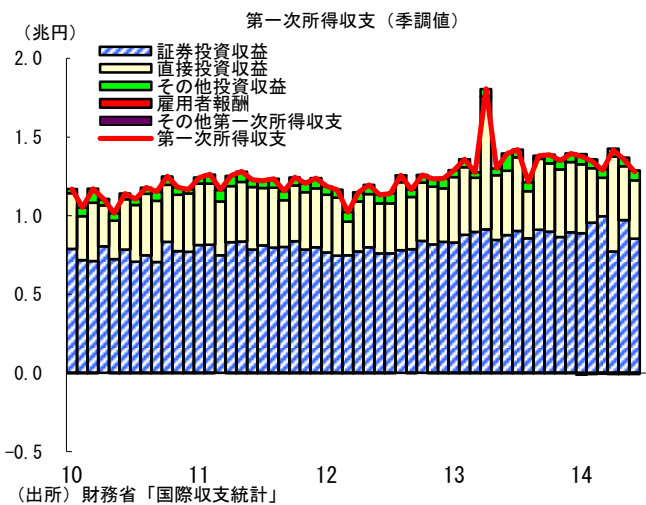
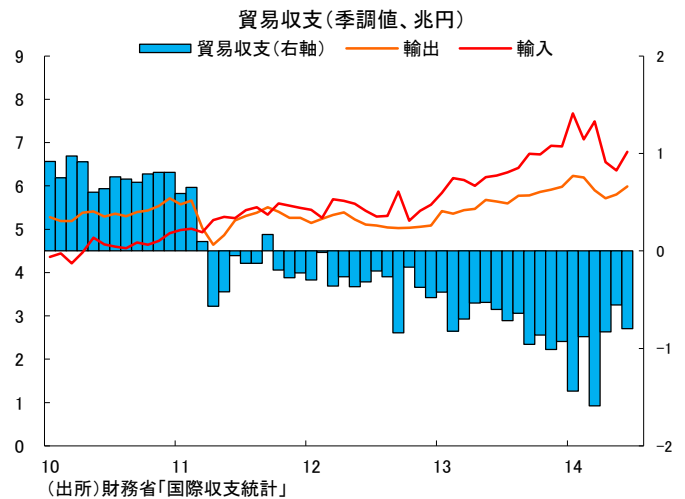
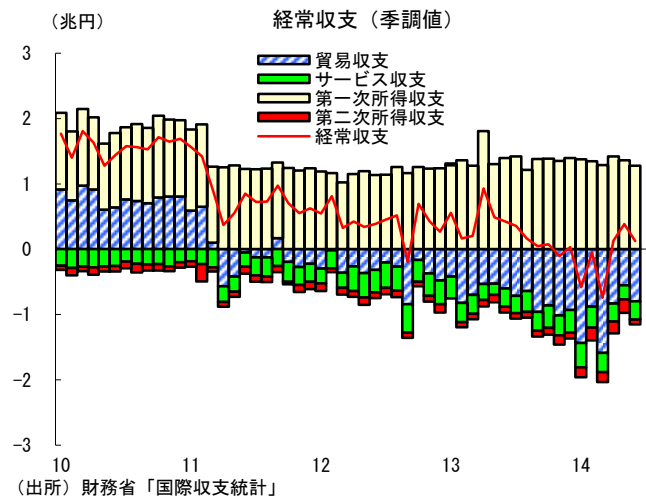
サービス収支は、2,806億円の赤字(5月:2,128億円赤字)と5ヶ月ぶりに赤字幅が拡大した。内訳をみ

ると、輸送収支（5月：348億円赤字→6月：550億円赤字）、その他サービス収支（5月：1,477億円赤字→6月：2,006億円赤字）の赤字幅が拡大した。一方、旅行収支（5月：302億円赤字→6月：250億円赤字）は赤字幅を縮小した。旅行収支を取り巻く環境をみると、2014年上半期の訪日外客数が過去最高となったことに加えて、「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）によれば2014年4－6月期の訪日外国人による旅行消費額も過去最高となった。訪日外客数、消費額ともに増加基調で推移していることを踏まえれば、旅行収支は今後も赤字縮小傾向での推移が続くことが見込まれる。

○先行きも経常収支（季節調整値）は黒字基調が維持される見込み

このように6月の経常収支（季節調整値）は、黒字幅縮小となった。先行きを展望する上では、貿易収支の動向が重要になる。先行きの貿易収支は輸出の増加を背景に赤字幅が縮小傾向で推移するとみている。7月の貿易統計上中旬速報をみると、7月の輸出は増加が期待できそうだ。財務省によれば、自動車や金属加工機械などが輸出の増加に寄与したとのことだ。また、輸出の動向に影響する海外経済をみると、低迷が続いていたアジア経済は中国の4－6月期GDPは減速に歯止めがかかるなど明るさが見えてきた。米国経済は雇用情勢の改善や家計のバランスシート改善などを背景に景気拡大ペースを速めており、今後も安定した成長を続ける公算が大きい。こうした海外経済の持ち直しが輸出の後押しとなろう。こうした貿易赤字の縮小に加え、第一次所得収支は豊富な対外資産を背景に高水準の黒字が維持されるとみており、経常収支は黒字基調を維持すると考える。

なお、現時点では7月の経常収支は原数値、季節調整値ともに黒字となる可能性が高いとみている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。